

2024年03月

中医学の「五行理論」及び臨床応用

上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

一、「五行」

(一)「五行」の字義

五 — 五つ、五種。

行 — 人之歩趨 『説文解字』 〈延長拡大〉 行為、行動、変動、変化

(二)「五行」の内容

木・火・土・金・水のこと。

(三)「五行」の概念の変化

- 五種類の自然物質
- 五種の元素
- 五行思想体系

(四)「五行」の定義

木・火・土・金・水という五種の運動変化である。

二、「五行学説」

(一) 五行思想

木・火・土・金・水5種の変動行為及び相互の関係によって全ての自然現象や人事現象を理解、整理と帰納しようとする考えかた。

(二)「五行」の内容・特徴・派生

五行	特徴	派生
木	曲直	生長・昇発・条達
火	炎上	温熱・上昇
土	稼穡	受納・生化
金	従革	粛殺・沈降・収斂
水	潤下	滋潤・寒冷・下向

(三) 五行理論 (学説)

世界のすべての物事は木・火・土・金・水の5種の基本物質の運動変化から構成されるものと認識される。さらに、五行の間相生相克の関係で各種の物事の間相互関係を説明でき、あらゆる物事は孤立的静止的なものではなく、絶え間なく相生相克の運動の中で協調と平衡を維持し合っている。

(四) 五行の相互関係

「相生」「相克」「相乗」「相侮」

相生：相手を育成、助長する意味。

相克：相手を制約、抑制する意味。

相乗：過剰に克する状態

相侮：克する側が克された状態

三、五行の中医学応用

(一) 人体の生理機能方面

五行	人体の構造及び生理機能							
	臓	腑	官竅	体	液	華	声	志
木	肝	胆	目	筋	淚	爪	呼	怒
火	心	小腸	舌	脈	汗	顔	笑	喜
土	脾	胃	口	肉	涎	唇	歌	思
金	肺	大腸	鼻	皮毛	涕	毛	哭	悲
水	腎	膀胱	耳 二陰	骨	唾	髮	呻	恐

肝(木) - 生 心(火) - 長 脾(土) - 化 肺(金) - 収 腎(水) - 藏

相生 - 促進 相克 - 抑制

(二) 人体の病理状態方面

1. 病理変化の認識

- ①内外表裏が一体である
- ②五行間に相互に影響する

2. 病理状態の診察弁証

望 聞 問 切

3. 病理改善の治療法

	五行関係	治療法則
母実瀉子	相生	
子虚補母	相生	
滋水涵木	相生	滋腎補肝(陰虚)
培土生金	相生	健脾養肺
金水相生	相生	補肺滋腎
抑木扶土	相剋・相乗	疎肝健脾、平肝和胃
培土制水	相剋・相乗	健脾温腎(陽虚)
平木佐金	相剋	瀉肝清肺
瀉南補北	相侮	降心火滋腎陰

まとめ

中医学方面における五行学説の応用

- 人体生命は五種の体系で構成する
- 五種体系の相生相剋によって生命活動を運営する（整体観念）
- 人体の生理病理の認識・診察弁証・治療を指導する